

令和7年度 学びの充実あと押し事業
AIアプリを活用した「学びをつなぐ」英語学習

実践内容



【AIアプリの特徴とは】

アプリの特長は、音声ですぐにフィードバックされることや、何度でもやり直せる環境にあります。これにより、子どもたちは「間違えること」への抵抗感を和らげた状態で学習に向かうことができました。教師や友だちの視線を気にすることなく、自分のペースで発音や表現を試し、修正する。その繰り返しで、子どもたちの「英語を使ってみよう」とつながっていたように感じました。

【AIアプリを生かしたローズ校との交流】

特に印象的だったのは、AIアプリで積み重ねた練習が、実際のコミュニケーション場面で活き始めた瞬間です。七年生の海外校とのオンライン交流において、子どもたちは準備した表現が通じなかったとき、言い換えたり、身振りを交えたりしながら、何とか伝えようとしていました。そこには、「正しいかどうか」よりも「伝えたい」という思いが前面に出ていました。



【学び方を選べる仕組みづくり】

教科担任とSTが、すべてのブースを回りながら、困っている子どもにはそっとヒントを渡し、言えそうな子には背中を押していました。自分の力で言葉にできた実感できるように支えていました。その子のそれらの積み重ねが、「やってみよう」「やってみよう」という気持ちを静かに支えていたように思います。

成果と課題

AIアプリが単なる反復練習の道具ではなく、『学びの土台』として機能していたことが成果だと感じています。基礎的な表現や音に慣れているからこそ、実際の場面で挑戦する余裕が生まれます。うまくいかなかった経験が、「次はどう言えばよいのか」という新たな課題意識を呼び起こしているようでした。学びが次へとつながっていくその循環が、子どもたちの姿から感じ取れました。単に「ICTを使ったから成果が出た」のではなく、「必要に迫られる場面」と「安心して試せる環境」を意図的に組み合わせた結果だと捉えています。